

プログラム

1日目(3月7日)

9:45～

開 場

10:30～

開 会 式

メイン会場

10:40～12:00

大会長企画1 [NOW & NEXT U20「研究を実践に活かす」]

メイン会場

座長：高畑 脩平(藍野大学 医療保健学部)

ひとりのクライアントからはじまる研究と臨床

草野 佑介(京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻 先端作業療法学講座, 京都大学医学部附属病院)

作業療法士と学校教員の協働の探究

—重症心身障害児の自立活動における実践のリフレクション—

濱田 匠(鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻)

質問紙で問い直す作業療法

—こどもの参加質問紙のNOW & NEXT—

中村 拓人(神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 リハビリテーション学科)

とはいえ、複雑な臨床の作業療法

三浦 正樹(ボバース記念病院 リハビリテーション部)

12:30～13:00

U20アフタートーク

メイン会場

13:20～14:50

特別講演 [発達科学のNOW & NEXT]

メイン会場

座長：松島 佳苗(関西医科大学大学院 生涯健康科学研究科)

感覚運動システムの始原 —発達初期から紐解く行動と認知の最先端—

金沢 星慶(東京大学大学院 情報理工学系研究科)

15:10～16:10

一般演題(口述発表I)

メイン会場

座長：鴨下 賢一(株式会社児童発達支援協会 リハビリ発達支援ルーム かもん)

OI-1 施設で過ごす重症心身障害児の就学に向けた取り組み ～「自分で描く」を支える～

○木村 基

四天王寺和らぎ苑

OI-2 「子育て」という作業に着目した家族支援により母の行動と感情に肯定的な変化が見られた一例

○加藤 龍馬¹⁾, 上野 英子¹⁾, 鹿島 尚晃¹⁾, Lim Yu Zhuang Germa²⁾

1) 合同会社 smile ハッピースマイル, 2) Alumnus of The University of Sydney, Australia

OI-3 医療的ケア児の非定型な発達過程に関する事例報告 —探索行動に着目した考察—

○草野 菜名美, 宗 皓, 須藤 しおり

医療法人財団はるかか会 訪問看護ステーションあおぞら京都

OI-4 痙攣重積型急性脳症患者の経過報告と今後の予測

○矢部 寿莉奈

社会医療法人熊谷総合病院

OI-5 Movement Imagery Questionnaire for Children 日本語版の信頼性と反応性の検討

○中島 輝¹⁾²⁾, 村田 未悠²⁾, 石田 優真²⁾, 友永 倫人²⁾, 岩永 竜一郎²⁾

1) 日本学術振興会 特別研究員, 2) 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科

OI-6 座位の姿勢制御を促し、リーチや自食など外的志向の動作が得られやすくなった一事例

○大井 千佳, 米持 喬

社会福祉法人愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター

15:10~16:00

一般演題(ポスターI)

第2会場

司会: 助川 文子(県立広島大学 保健福祉学部)

**PI-1 CO-OP アプローチによる主体性向上の有効性：
脳性麻痺と重度知的障害を有する生徒の事例研究**

○尾崎 充希¹⁾, 塩津 裕康²⁾, 岩永 竜一郎³⁾

1) 宮崎大学 教育学部 教育臨床心理講座,

2) 名古屋市立大学 医学部 保健医療学科 リハビリテーション学専攻 作業療法学コース,

3) 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科

PI-2 作業療法士による特別支援学級での自分研究 —卒業する児童へのパイロットスタディー—

○倉澤 茂樹¹⁾, 奥津 光佳²⁾, 山口 清明²⁾, 三宅 沙希²⁾, 塩津 裕康³⁾

1) 福島県立医科大学 保健科学部 作業療法学科, 2) 特定非営利法人はびりす,

3) 名古屋市立大学 医学部 保健医療学科

PI-3 障がい児通所支援における子どもの関わり方自己評価表の内容妥当性と有用性の検討

○丸山 梨恵¹⁾, 金森 幸¹⁾, 東 泰弘²⁾

1) 株式会社リニエール, 2) 奈良学園大学

PI-4 不登校児童生徒の居場所に関する研究 ~保護者と支援者へのインタビューの初期分析~

○阿部 妃里¹⁾²⁾, 阿部 麻衣子³⁾, 中岡 和代¹⁾

1) 大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科, 2) 榎原市子ども総合支援センター,

3) NPO 法人ミライサポートプロジェクトいわた

PI-5 22q11.2欠失症候群における支援：文献レビュー

○宇田 あかね¹⁾²⁾, 西村 朱美²⁾

1) 京都大学 人間・環境学研究科, 2) 児童発達支援センターこぐま園

9:15～

開 場

9:45～10:45

大会長企画2 [NOW & NEXT U10「研究を実践に活かす」]

メイン会場

座長：松田 祥子(愛知県医療療育総合センター中央病院)

子どもと家族の暮らしをともにデザインする目標達成支援アプリの社会実装
—事例報告からアプリ開発を通じた Translational Research—

倉 昂輝(みなとのこどもデイ, 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 研究員,
北里大学大学院 医療系研究科 博士課程)

作業療法士の多様な実践を拓く
—研究から社会実装へ—

野田 遥(株式会社 LITALICO LITALICO 研究所, 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 客員研究員)

DCD(発達性協調運動症)児のより良い生活に向けた実践と研究
—NOW から NEXT へ—

東恩納 拓也(東京家政大学 健康科学部 リハビリテーション学科)

11:00～11:50

一般演題(口述発表Ⅱ)

メイン会場

座長：有川 真弓(千葉県立保健医療大学 リハビリテーション学科)

OII-1 課題指向型と障害指向型の評価から支援方法を検討した1症例
～短縄跳び課題を通して～

○田中 尚樹

宝塚市立子ども発達支援センター 診療所

OII-2 使用する手を統一しスプーン操作性向上を試みた事例

○水野 まりあ

社会福祉法人愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター

OII-3 保育コンサルテーションにおける環境課題に焦点を当てた実践
子どもとの関わりの不安軽減に向けた取り組み

○吉田 裕作¹⁾, 田代 徹²⁾

1) 保育・療育コンサルタント SAPONOBİ, 2) 福岡リハビリテーション病院

OII-4 大阪府羽曳野市における5歳児健診 ～令和6年度の取り組み～

○中岡 和代¹⁾, 壺坂 絵里香²⁾, 白樫 智子²⁾, 松永 千佳²⁾, 辻西 睦美²⁾, 大坪 文子²⁾,
矢敷 香織³⁾, 松岡 太郎⁴⁾

1) 大阪公立大学 リハビリテーション学研究科, 2) 羽曳野市 こども家庭支援課, 3) 羽曳野市 教育委員会,
4) 羽曳野市 児童発達支援スーパーバイザー

OII-5 痙直型脳性麻痺児の食事の自立および普通箸の使用に関連する要因

○中村 まい香¹⁾²⁾, 立山 清美³⁾, 中岡 和代³⁾, 佐藤 邦洋²⁾

1) 大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科 博士前期課程,
2) 大阪発達総合療育センター リハビリテーション部,
3) 大阪公立大学大学院 リハビリテーション学研究科 リハビリテーション学専攻

司会：中島 そのみ(札幌医科大学 保健医療学部)

PⅡ-1 保育所等訪問支援の関わりによって落ち着きが出始めた一事例

○堤 勇人

株式会社ハッピーサービスグループ 保育所等訪問支援 ハッピーリング

PⅡ-2 児童発達支援・放課後等デイサービス利用児童の就学前後における困難さの特徴○東條 拓海¹⁾²⁾，中岡 和代¹⁾，立山 清美¹⁾，原田 瞬³⁾，中村 まい香⁴⁾

1)大阪公立大学大学院 リハビリテーション研究科，2)株式会社 BASE ともかな FLOW 香芝，

3)京都橘大学 健康科学部 作業療法学科，4)大阪発達総合療育センター

PⅡ-3 言葉を活さなくても、友達できるよ！ 一場面緘黙支援におけるチームの再構築—

○久志 直子

YUIMAWARU 株式会社 こどもセンターゆいまわる

PⅡ-4 保育所等訪問支援を通じた肢体不自由児の保育参加の変化○武田 真裕子¹⁾，勝原 勇希²⁾

1)神戸医療福祉センターにこここハウス，2)森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部 作業療法学科

12:00～12:30

総 会

メイン会場

12:40～13:00

U10アフタートーク

メイン会場

13:10～14:00

一般演題(口述発表Ⅲ)

メイン会場

座長：伊藤 祐子(東京都立大学 健康福祉学部)

○Ⅲ-1 視線ヒートマップによる重症心身障害者の関心の可視化

—意思理解への手がかりの探索—

○松寄 由莉¹⁾，奥田 祥司²⁾

1)群馬パース大学 リハビリテーション学部 作業療法学科，

2)堺市立重症心身障害者(児)支援センター ベルデさかい

○Ⅲ-2 筋電図駆動ロボットハンドを用いた課題指向型練習で洗体動作獲得に至った**ヘルペス脳炎後左片麻痺児の一例**○道願 正歩¹⁾²⁾，奥山 航平¹⁾²⁾，守屋 耕平¹⁾²⁾，細川 大瑛¹⁾²⁾，辻 哲也¹⁾²⁾，川上 途行¹⁾²⁾

1)慶應義塾大学 医学部 リハビリテーション医学教室，2)慶應義塾大学病院 ニューロモデュレーションセンター

**○Ⅲ-3 神経発達症児への作業療法における参加測定ツールの使用パターン：
スコーピングレビュー**○長島 佑喜¹⁾，倉 昂輝²⁾³⁾⁴⁾，中村 拓人⁵⁾

1)神奈川県立保健福祉大学(学部生)，2)みなとのこどもデイ，3)神戸学院大学 研究員，

4)北里大学大学院 博士課程，5)神奈川県立保健福祉大学

○Ⅲ-4 「作業」を通して**在宅重症心身障がい児をもつ兄弟の相互的なコミュニケーション機会が増加した一例**

○長谷川 雄大

西宮市立こども未来センター

○Ⅲ-5 保育所等訪問支援で保育士と連携するためには**—OTによる訪問支援を受けた保育士へのインタビューを通して—**

○吉本 敬祐

NPO 法人そいる るーと

司会：森田 浩美(新宿区立子ども総合センター)

PⅢ-1 左小脳出血によって片麻痺を呈した小児に対する CO-OP の実践
～妹にお菓子を買ってあげるんだ!～

○白水 麻美子, 田代 徹

医療法人博仁会 福岡リハビリテーション病院

PⅢ-2 保育園における作業療法士配置による多職種協業形成の過程
—実践記録の質的分析を通して—○尾崎 将充¹⁾, 草野 佑介²⁾

1) 社会福祉法人美樹和会, 2) 京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻

PⅢ-3 特定の作業遂行の支援が子どもの包括的な参加に及ぼす影響
—家族を環境要因とした一事例—○石井 ハル¹⁾, 石井 真智子¹⁾, 菅 圭太郎¹⁾, 中村 拓人²⁾

1) 一般社団法人 CIS spaceKid's. con デイサービス,

2) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 リハビリテーション学科

PⅢ-4 小集団作業療法の意義に関する作業療法士の視点からの検討
—KJ法を用いた質的分析—

○杉村 喜美子, 羽尻 陽江, 和田 真紀, 足立 ひとみ, 三浦 美湖, 横山 令子

聖ヨゼフ医療福祉センター リハビリテーション科

座長：仙石 泰仁(札幌医科大学 保健医療学部)

学校のための作業療法の展開とその意義
—こどもの作業が生きる環境を支えるために—

仲間 知穂(日本学校作業療法研究会 会長, こどもセンターゆいまわる 代表)

人生丸ごと学校作業療法
～“残すに値する日本の未来”を創る飛驒モデル～山口 清明(特定非営利活動法人はびりす 代表理事, 株式会社りすの実 代表取締役,
飛驒市障がい福祉課ふらっと 作業療法士)**OT 協会制度対策部として目指す「学校作業療法士」**

酒井 康年(日本作業療法士協会 制度対策部 副部長)